



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月14日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営サポート本部長 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年3月期第3四半期	72,760	3.1	4,177	18.1	4,504	17.7	3,067	△1.2
2024年3月期第3四半期	70,550	9.9	3,538	282.1	3,825	227.4	3,104	240.6

(注) 包括利益2025年3月期第3四半期 2,550百万円(△51.1%) 2024年3月期第3四半期 5,217百万円(182.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	99.42	—
2024年3月期第3四半期	100.65	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年3月期第3四半期	81,097	53,744	66.0
2024年3月期	79,711	52,086	65.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 53,487百万円 2024年3月期 51,830百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	14.00	—	14.00	28.00
2025年3月期	—	15.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	94,000	1.0	4,250	1.5	4,450	1.3	2,650	3.0	85.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	32,009,910株	2024年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,154,870株	2024年3月期	1,161,554株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	30,851,870株	2024年3月期3Q	30,843,786株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間においては、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しや、インバウンド需要の拡大により外食需要の回復が見られました。一方で、不安定な国際情勢による景気減速リスクに加え、原材料およびエネルギー価格の高止まりや為替変動による調達費用の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、基幹事業である国内モスバーガー事業においては、消費の二極化に対応した商品として、プレミアム価格帯の新たな定番商品や期間限定商品を発売いたしました。レギュラー価格帯を含めた価格のグラデーション化によりお客様の選択肢を増やすことで、より幅広い層のお客様の獲得に繋がりました。さらに、全社的に費用対効果を意識することで販管費の抑制を徹底したほか、在庫回転率向上による保管費の減少、移送の効率化などコストの抑制に取り組みました。海外事業では、既存店の強化に努めるとともに、不採算店舗の閉店や価格改定、本社経費の抑制など収益性の改善に取り組みました。

また、ESGの観点から当社グループのマテリアリティ（重要課題）を、①食と健康、②店舗と地域コミュニティ、③人材育成と支援、④地球環境の4つに定め、事業活動を通じて社会に向けた価値創造に取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が727億60百万円(前年同四半期比3.1%増)、営業利益41億77百万円(同18.1%増)、経常利益45億4百万円(同17.7%増)となり、最終損益は主に投資有価証券売却益が減少したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億67百万円(同1.2%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### <国内モスバーガー事業>

国内モスバーガー事業では、お客様のニーズに合わせた商品開発、マーケティング展開に加え、お客様との接点の量と質を強化し、地域に密着した店舗運営を推進しております。

当第3四半期連結累計期間においては、高付加価値な新カテゴリーとして3月から販売した新商品「新とびきり」シリーズが、10月末までにシリーズ累計1,000万食を売り上げるなど大変ご好評をいただいております。売上高、客単価、客数はいずれも前年を上回りました。

モスバーガー既存店および全店実績（2024年4月～12月） (前年同期比)

既存店売上高	既存店客数	既存店客単価	全店売上高
103.4%	101.8%	101.5%	104.7%

#### ① 商品・マーケティング施策

当年度は、ブランドスローガンとして「モスしかできないことしよう。」を掲げ、昨年度に続き、ブランドキャラクターとして女優・永野芽郁さんを起用したプロモーションを展開しております。

11月より、日本の良さを存分に楽しめる高付加価値バーガーとして、国産牛100%使用のパーティを使用した「新とびきりアボカド」や、一頭買った黒毛和牛の希少部位を含めた19部位全てをパーティに使用した「一頭買い 黒毛和牛バーガー ～山わさび醤油仕立て～」を販売し、ご好評をいただきました。

クリスマスから年末年始のシーズンに向けて、TVアニメ『ONE PIECE』とのコラボレーションを企画し、キャラクターを使用した「モスチキン」キャンペーンを実施したほか、数量限定で「2025 モス福袋」を販売いたしました。

#### ② 店舗施策

居心地の良い店舗空間づくりを推進したほか、カフェ需要に対応して、ドリンクやスイーツを充実させました。さらに、店舗スタッフの業務手順の見直しや、焼成などオペレーションの時間短縮が可能な厨房機器を導入することで生産性を向上させ、お客様への商品提供時間の短縮に取り組みました。また、10月以降は店舗看板を視認性の高いシンプルなデザインに順次リニューアルしております。

出退店実績 (2024年12月末時点)

(2024年3月末比)

出店	退店	店舗数	増減
15	14	1,314	+1

## ③ デジタル技術の活用

デジタル技術を活用し、C X (お客様の体験価値) と E X (社員や店舗メンバーの働きがい) の向上を目指しております。お客様の利便性向上に向けた取り組みとしては、レジに並ばず注文できる「お席で注文」を全店に導入いたしました。さらに、将来の人手不足を見据えた対策として「フルセルフレジ」の導入や、デジタルサイネージを活用したドライブスルーでの注文時間の短縮に取り組みました。

## ④ 新たな事業展開

マーチャンダイジング事業では、E C サイト「モスライスバーガー専門店」において、海外の料理をヒントに開発した新商品を販売し、商品ラインナップの充実を図っております。また、新たなチャネル獲得の取り組みとして、当社監修商品を他社チャネルで販売いたしました。

今後も取り組みを拡大し、ブランドの価値向上とともに、新たな収益源へと育ててまいります。

## ⑤ E S G への取り組み

モスグループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、環境・社会・ガバナンス (E S G) の観点から4つのマテリアリティ (重要課題) を特定し、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進しております。

主な取り組み (2024年4月~12月)

「こどもス」プロジェクトを開始	2024年5月から全国のモスバーガー店舗で、お子さま連れのお客様がモスバーガー店舗でのひとときをこれまで以上に楽しんでいただくための子育て応援施策「こどもス」プロジェクトを開始しました。
静岡、長野のモスファームで温室効果ガス排出量の削減貢献率20%を達成	温室効果ガス排出量を削減した野菜の生産を積極的に推進しております。「モスファームすずなり」(静岡県)と「モスファーム信州」(長野県)で生産するレタスが温室効果ガスの排出量を地域の標準的な農法と比べて20%以上削減していることが認められ、農林水産省が推進している『温室効果ガス削減の「見える化」ラベル』(愛称:みえるらべる)の星3つを取得しました。
ドリンクスタンド 「Stand by Mos」をオープン	主に規格外品などで廃棄されてしまう野菜を使用したドリンクを販売する新業態のドリンクスタンド「Stand by Mos」(スタンドバイモス)を、東武東上線「池袋駅」の改札内に2024年8月にオープンしました。また、寒い時期に合わせて、皮まで食べられるエコレモンが入った新商品「じんわりとろけるホットレモネード」などの提供を開始しました。
「新潟MOSごと美術館2024」の作品をカップデザインに初採用	障がいのある方々が描いたアート作品を店舗に展示する「新潟MOSごと美術館2024」の作品の中から、新潟県佐渡市在住の前田優作さん作『Fire works』及び『秋桜と朱鷺』をコールドドリンク紙カップのデザインに採用し、新潟県の全店舗と原宿表参道店(東京都渋谷区)にて、2024年9月中旬から数量限定で提供しました。
音楽レーベル “MOS RECORDS”を設立	2024年4月から全国のモスバーガー店舗で働くスタッフ(社員・キャスト)を対象に、次世代アーティスト・クリエイターを発掘・応援・共創する“MOS RECORDS”(モスレコーズ)プロジェクトを開始し、働く環境の魅力化と人材確保に取り組みました。9月には100名もの応募者が参加した第1回オーディションにて選ばれたアーティスト「Lui」(ルイ)がデビューしました。
規格外トマトのカレーや未利用間伐材を使用したIDケースなどふるさと納税返礼品を提供開始	熊本県八代市の返礼品として「モスバーガー厳選 規格外トマトのスパイスチキンカレー」、長野県松川町の返礼品として間伐材を使用した「森を育てるIDケース」「森から生まれたリルモスのピンバッジ」の提供を2024年11月から開始しました。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は579億69百万円(前年同四半期比3.9%増)となり、セグメント利益(営業利益)は51億99百万円(前年同四半期比7.0%増)となりました。

## &lt;海外事業&gt;

海外事業では、日本の食文化を大切にしたい定番商品に加え、現地の嗜好を取り入れたローカライズ商品を販売するなど、地元のお客様にも愛される、地域に根差した店舗展開を進めております。

さらに、商圈の変化および人流の変化に対応して、不採算店舗の閉店や既存店の改装、本社経費の抑制など収益性の改善に取り組みました。店舗数は26店舗減少し430店舗となりました。

## 海外店舗数増減

国・地域名	2023年12月末時点	2024年9月末時点	増減数
台湾	305	299	△6
香港	49	47	△2
シンガポール	42	39	△3
タイ	29	26	△3
韓国	14	12	△2
フィリピン	8	7	△1
中国	6	—	△6
オーストラリア	3	—	△3
合計	456	430	△26

※海外事業に属する関係会社の会計期間は2024年1月から9月であるため、同期間の情報を記載しております。

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は125億86百万円(前年同四半期比0.1%増)、セグメント利益(営業利益)は2億29百万円(前年同四半期比2億28百万円の利益増)となりました。

## &lt;その他飲食事業&gt;

その他飲食事業は、不採算店舗の整理や商品力の強化、サービス品質の向上を図り、収益性の改善を進めております。

10月には、モスバーガーとミスタードーナツのコラボレーション店舗「MOSDO(モスド)ららぽーと新三郷店」をオープンいたしました。

## その他飲食事業概要

(2024年12月末時点)

事業	事業の内容	店舗数
マザーリーフ	スリランカの茶園直送の紅茶とワッフルを提供する紅茶専門店	4
マザーリーフ ティースタイル	新しい紅茶のスタイルを提案するセルフスタイルカフェ	7
モスド	モスバーガーとミスタードーナツとのコラボレーションショップ	2
モスプレミアム	グルメバーガーとお酒が楽しめるフルサービスレストラン	2
カフェ 山と海と太陽	バリエーション豊かなドリンクとハンバーガーを提供するカフェ店舗	2
あえん	四季折々の旬菜料理を提供する和風レストラン	4
玄米食堂あえん	こだわりの玄米定食をメインにした食堂タイプの「あえん」	2
	合計	23

以上の事業活動の結果、その他飲食事業の売上高は13億54百万円(前年同四半期比3.6%減)、セグメント損失(営業損失)は81百万円(前年同四半期比20百万円の損失増)となりました。

## &lt;その他の事業&gt;

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは衛生管理、株式会社モスクレジットはF C加盟店を対象とした機器レンタルや保険・金融、株式会社モスシャインはグループ内業務のアウトソーシング等により主に国内モスバーガー事業やその他飲食事業を支援しております。

機器レンタルの増加等により、その他の事業の売上高は8億50百万円(前年同四半期比10.6%増)となり、セグメント利益(営業利益)は4億40百万円(前年同四半期比23.4%増)となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度に比べ13億86百万円増加し、810億97百万円となりました。流動資産は前連結会計年度に比べ41億90百万円増加し、固定資産は28億4百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、クリスマス商戦等の季節変動により棚卸資産や売掛金が増加したこと及びキャッシュレス決済増加により未収入金が増加したことによるものであります。固定資産が減少した主な理由は、時価の変動等によって投資有価証券が減少したこと及び減損損失の計上等により有形固定資産が減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ2億71百万円減少し、273億53百万円となりました。この減少の主な理由は、クリスマス商戦等の季節変動により仕入債務や未払金が増加した一方で、リース債務、未払法人税等、借入金及び賞与引当金が減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ16億57百万円増加し、537億44百万円となりました。この増加の主な理由は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末65.0%から当第3四半期連結会計期間末は66.0%と1.0%増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日発表の通期連結業績予想から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,182	22,621
受取手形、売掛金及び契約資産	6,848	9,209
有価証券	389	576
商品及び製品	4,185	4,505
原材料及び貯蔵品	547	638
未収入金	4,204	6,049
その他	432	380
貸倒引当金	△16	△16
流動資産合計	39,773	43,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,844	22,217
減価償却累計額	△13,617	△15,078
建物及び構築物(純額)	8,226	7,138
機械装置及び運搬具	366	463
減価償却累計額	△244	△279
機械装置及び運搬具(純額)	121	183
工具、器具及び備品	9,986	10,450
減価償却累計額	△6,261	△6,769
工具、器具及び備品(純額)	3,725	3,681
土地	1,043	1,038
建設仮勘定	187	146
有形固定資産合計	13,305	12,188
無形固定資産		
その他	2,350	2,150
無形固定資産合計	2,350	2,150
投資その他の資産		
投資有価証券	15,267	14,212
長期貸付金	1,363	1,155
差入保証金	5,150	5,007
繰延税金資産	77	42
その他	2,495	2,418
貸倒引当金	△54	△25
投資損失引当金	△19	△15
投資その他の資産合計	24,281	22,794
固定資産合計	39,937	37,133
資産合計	79,711	81,097



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,650	6,328
短期借入金	92	361
リース債務	2,052	1,809
未払金	5,555	7,345
未払法人税等	1,110	737
賞与引当金	494	287
ポイント引当金	88	92
資産除去債務	53	63
その他	3,575	3,076
流動負債合計	18,673	20,103
固定負債		
長期借入金	2,899	2,349
リース債務	2,136	1,278
繰延税金負債	596	405
役員株式給付引当金	—	13
株式給付引当金	211	216
退職給付に係る負債	316	289
資産除去債務	905	852
その他	1,886	1,844
固定負債合計	8,952	7,250
負債合計	27,625	27,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,058	11,119
利益剰余金	26,168	28,328
自己株式	△1,750	△1,790
株主資本合計	46,889	49,069
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,885	2,444
為替換算調整勘定	2,031	1,967
退職給付に係る調整累計額	23	5
その他の包括利益累計額合計	4,940	4,417
非支配株主持分	256	256
純資産合計	52,086	53,744
負債純資産合計	79,711	81,097

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	70,550	72,760
売上原価	37,273	38,357
売上総利益	33,277	34,403
販売費及び一般管理費	29,738	30,225
営業利益	3,538	4,177
営業外収益		
受取利息	64	70
受取配当金	71	95
設備賃貸料	239	178
持分法による投資利益	69	32
雑収入	222	299
営業外収益合計	668	676
営業外費用		
支払利息	116	136
設備賃貸費用	161	128
雑支出	102	84
営業外費用合計	380	349
経常利益	3,825	4,504
特別利益		
固定資産売却益	230	239
投資有価証券売却益	764	42
関係会社出資金売却益	—	1
投資損失引当金戻入額	0	—
関係会社清算益	27	—
特別利益合計	1,022	283
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	40	33
減損損失	245	386
投資有価証券評価損	32	12
投資損失引当金繰入額	—	1
特別損失合計	320	433
税金等調整前四半期純利益	4,527	4,354
法人税、住民税及び事業税	1,162	1,202
法人税等調整額	258	72
法人税等合計	1,421	1,275
四半期純利益	3,106	3,079
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,104	3,067

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	3,106	3,079
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,103	△499
為替換算調整勘定	404	△35
退職給付に係る調整額	△26	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	629	26
その他の包括利益合計	2,110	△528
四半期包括利益	5,217	2,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,197	2,544
非支配株主に係る四半期包括利益	20	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	55,802	12,574	1,405	768	70,550	—	70,550
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	117	92	91	1,048	1,350	△1,350	—
計	55,920	12,666	1,497	1,817	71,901	△1,350	70,550
セグメント利益又は損失(△)	4,860	0	△61	357	5,157	△1,618	3,538

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,618百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,585百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて32百万円、「海外事業」セグメントにおいて192百万円、「その他飲食事業」セグメントにおいて20百万円の減損損失を計上しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	57,969	12,586	1,354	850	72,760	—	72,760
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	136	1	96	1,108	1,342	△1,342	—
計	58,106	12,587	1,451	1,958	74,103	△1,342	72,760
セグメント利益又は損失(△)	5,199	229	△81	440	5,788	△1,610	4,177

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,610百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,573百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて53百万円、「海外事業」セグメントにおいて333百万円の減損損失を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	3,549百万円	3,307百万円